

「子ども食堂など地域の子どもの居場所」に関するアンケート調査 報告書

■調査の目的

- ・地域の子ども・子育て支援の状況及び「子ども食堂など地域の子どもの居場所」のニーズ等を把握すること
- ・「子ども食堂など地域の子どもの居場所」を開設したい方や運営している方の参考資料として関係団体や機関へフィードバックすること
- ・「子ども食堂など地域の子どもの居場所」の課題について把握し、今後の支援の検討に必要な基礎知識を把握すること

■調査概要

調査対象：旭区民生委員・児童委員会長・副会長、主任児童委員、子ども居場所等活動団体、地域ケアプラザ

回収数：76件(回収率 71.6%)

調査方法：直接配布(旭区民生委員・児童委員定例会を通じて配布)、郵送・FAX回収

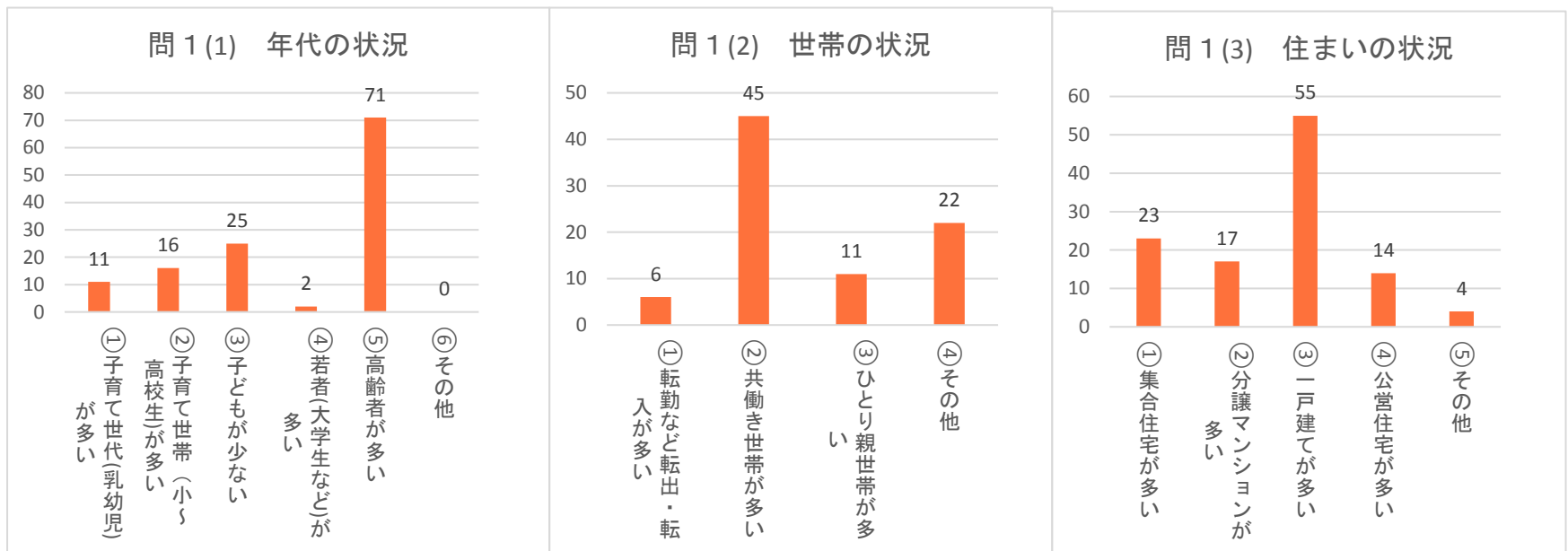
調査期間：平成30年7月～9月

■調査結果

A. 地域の子どもや子育て支援活動の状況について

●問1 地域特性(1つ以上回答)

年代の状況としては、5割以上「高齢者が多い」と感じている。世帯の状況では、「共働きが多い」、住まいの状況は「一戸建てが多い」の回答が多くなっている。



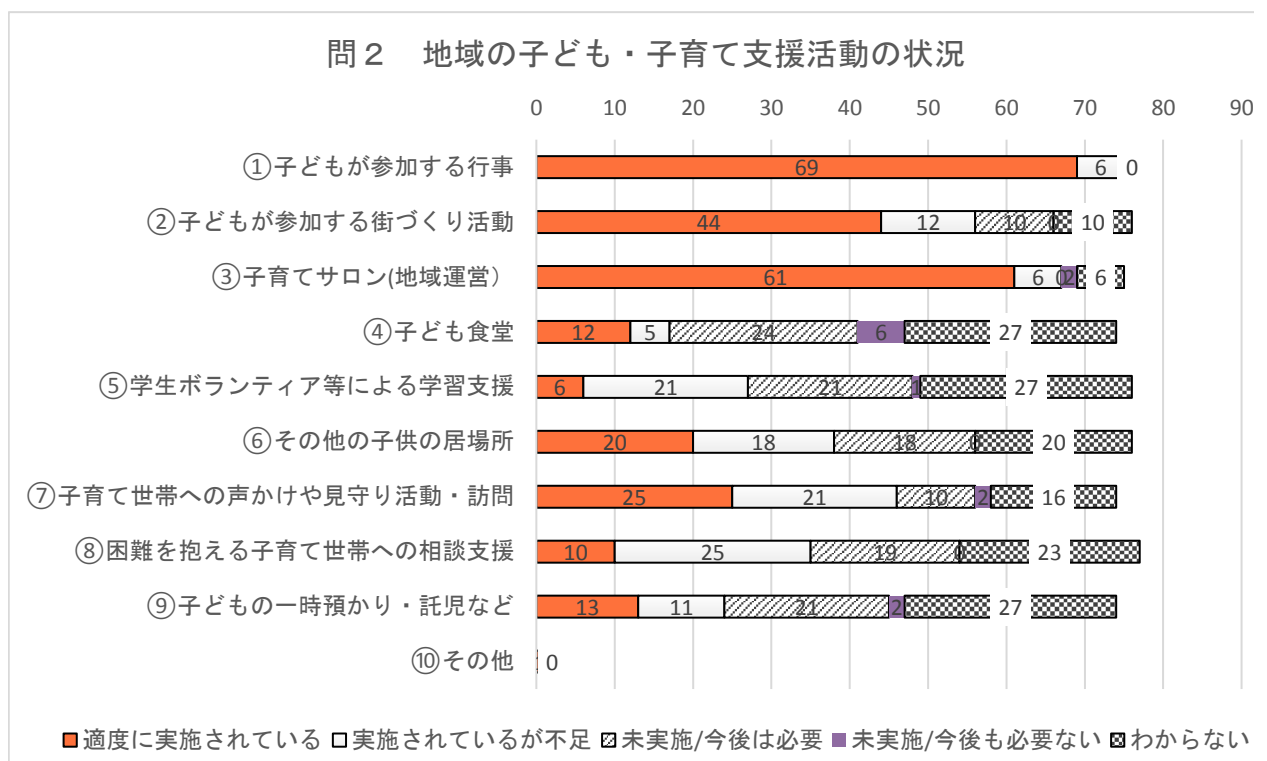
●問2 地域の子ども・子育て支援活動の状況

(各項目につき1つ回答)

「適度に実施されている」の割合は①子どもが参加する行事、②子どもが参加する街づくり活動、③子育てサロンが高くなっており、充足度が高いといえる。

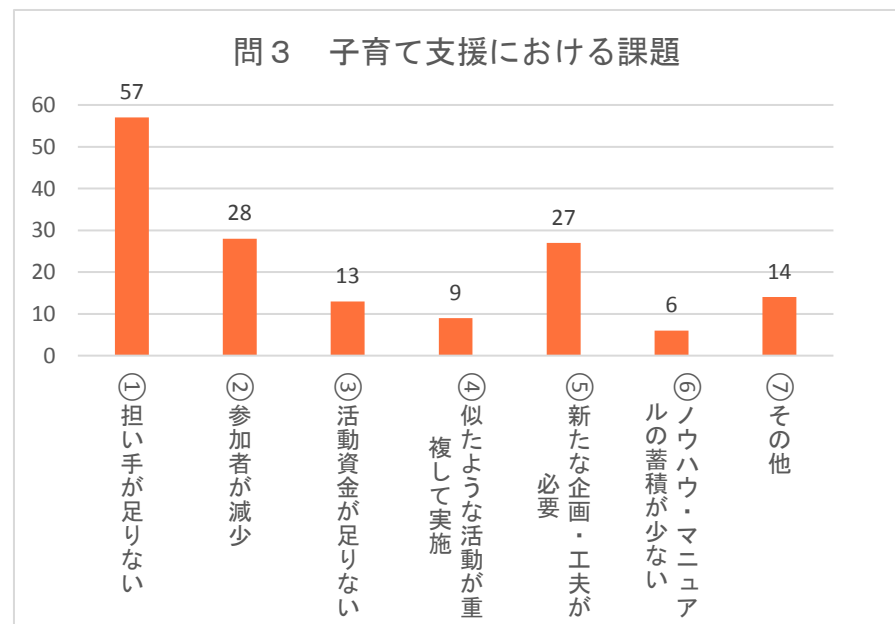
「実施されているが不足」「未実施/今後は必要」の割合は、⑤学生ボランティア等による学習支援、⑧困難を抱える子育て世帯への相談支援、⑥その他の子どもの居場所が高くなっており必要性を感じている人が多いことが伺える。

「わからない」の割合は、④子ども食堂、⑤学生ボランティア等による学習支援、⑨子どもの一時預かり・託児などが多く、活動の情報不足が伺えた。



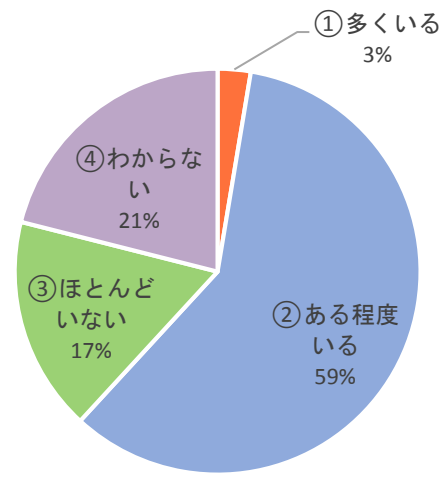
●問3 子育て支援における課題(複数回答)

「担い手が足りない」の回答率が最も多く、次いで「参加者が減少」「新たな企画・工夫が必要となっている」となっており、人材に関する課題への関心が高いことが伺えた。



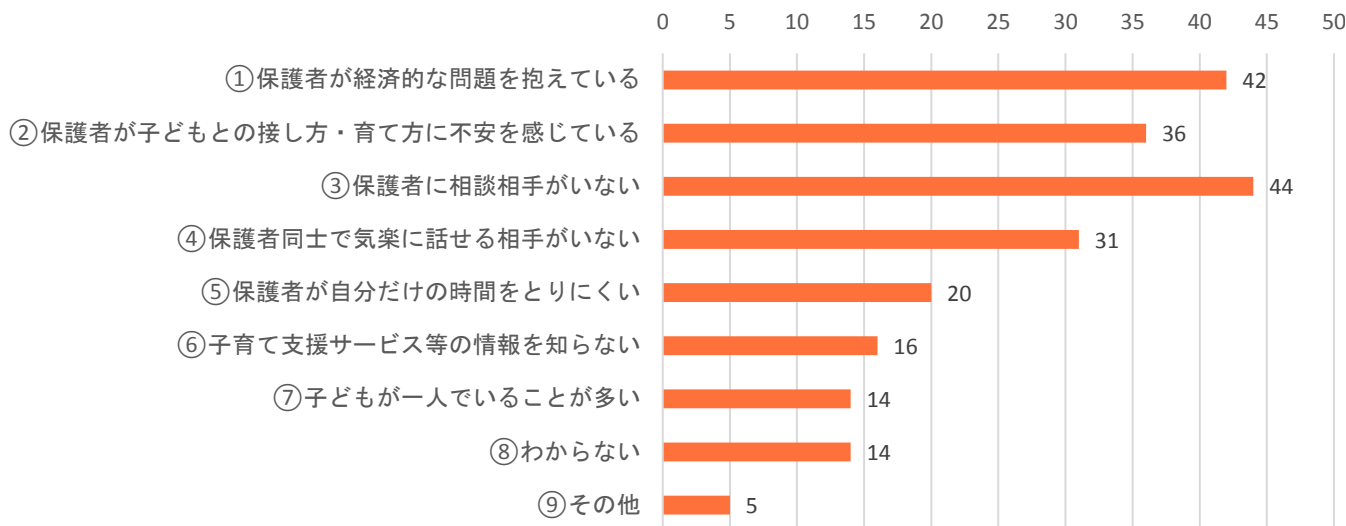
●問4 地域における支援必要世帯の状況(1つ回答)
「ある程度いる」の割合が最も高く、次いで「ほとんどいない」「わからない」の順となっており、支援の必要な世帯が「いる」と感じている人の割合は、約6割を占めている。

問4 困難を抱え支援が必要と思われる子どもや子育て世帯がいると感じるか



●問5 子どもや子育て世帯が抱える困難(複数回答)
「保護者に相談相手がない」の回答が最も多く、次いで「保護者が経済的な問題を抱えている」「保護者が子どもとの接し方・育て方に不安を感じている」「保護者同士で気楽に話せる相手がない」の順となっている。

問5 子どもや子育て世帯が抱える困難とは



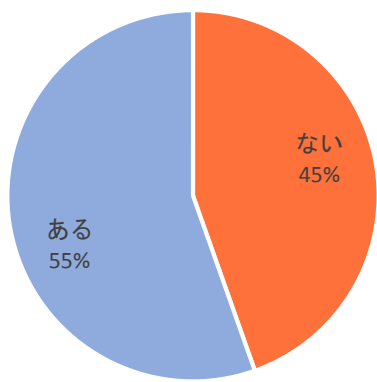
⑨その他 主な意見

- ・保護者が精神疾患や障害を抱えている。
- ・支援活動や子育ての集まりに参加する親子とまったく参加しない親子の地域性の格差が広がり、余計に孤立してしまい保護者の友人を作る機会が減っている家庭ができています。
- ・危機管理意識が乏しい。
- ・不登校
- ・中高年家庭が多く、子育て家庭が少ない。
- ・本人が自閉症傾向と思われる。

●問6 子どもや子育て世帯の困難を見聞き、対応した経験の有無(1つ回答、具体例記述)

「ある」の割合が55%で、多くの方が子どもや子育て世帯の困難を感じている。見聞き、相談を受けた内容は、「子育てに対する不安や悩み」「母親、子どもの孤立」「経済的問題」に関する記述が多く見られた。

問6 子どもや子育て世帯が抱える困難について見聞きしたり、相談対応したことはあるか

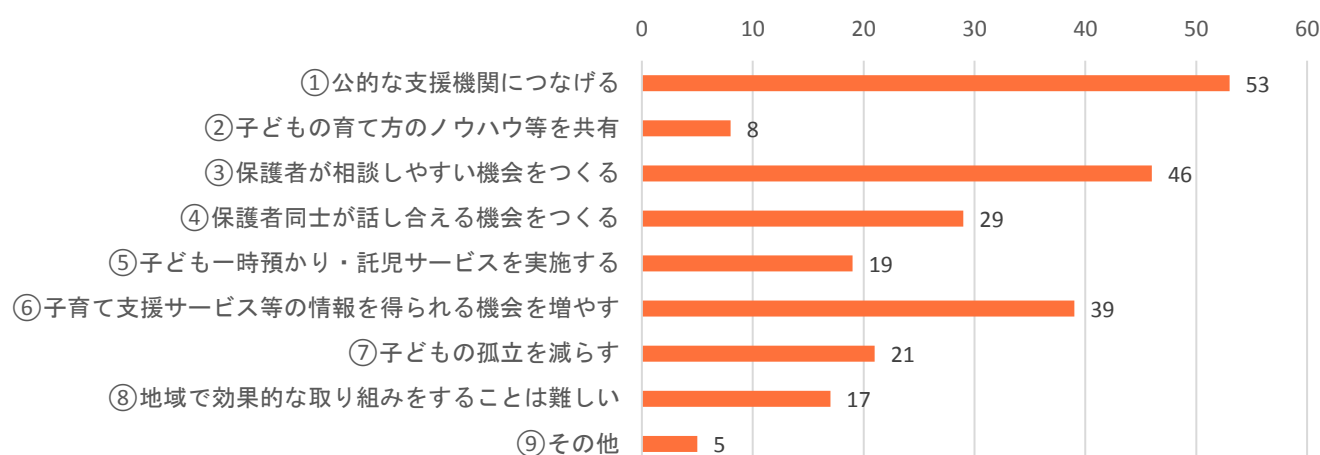


項目		件数
見聞き又は相談を受けた困難	育児放棄、養育困難	5
	子育てに対する不安、悩み	16
	経済的問題	8
	不登校、ひきこもり	4
	母親・子どもの孤立	11
対応策	関係機関との相談・連携	2
	見守り・訪問	3

●問7 子どもや子育て世帯の支援のために効果的と思われる地域活動(複数回答)

「公的な支援機関につなげる」「保護者が相談しやすい機会をつくる」の回答が多く、次いで、「子育て支援サービスの情報を得られる機会を増やす」「保護者同士が話し合える機会をつくる」の順となっている。

問7 困難を抱える子どもや子育て支援するためにはどのような地域活動が効果的であるか

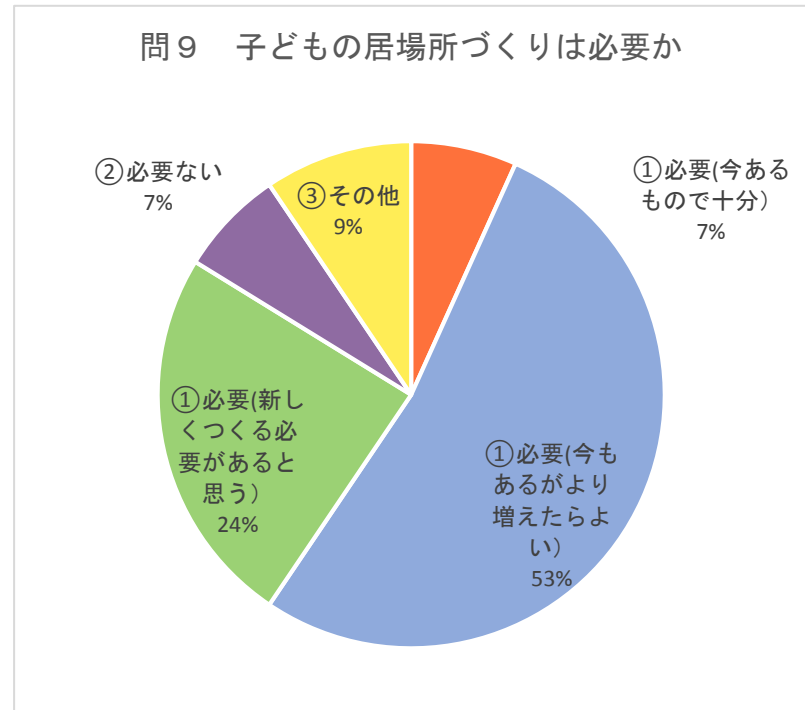
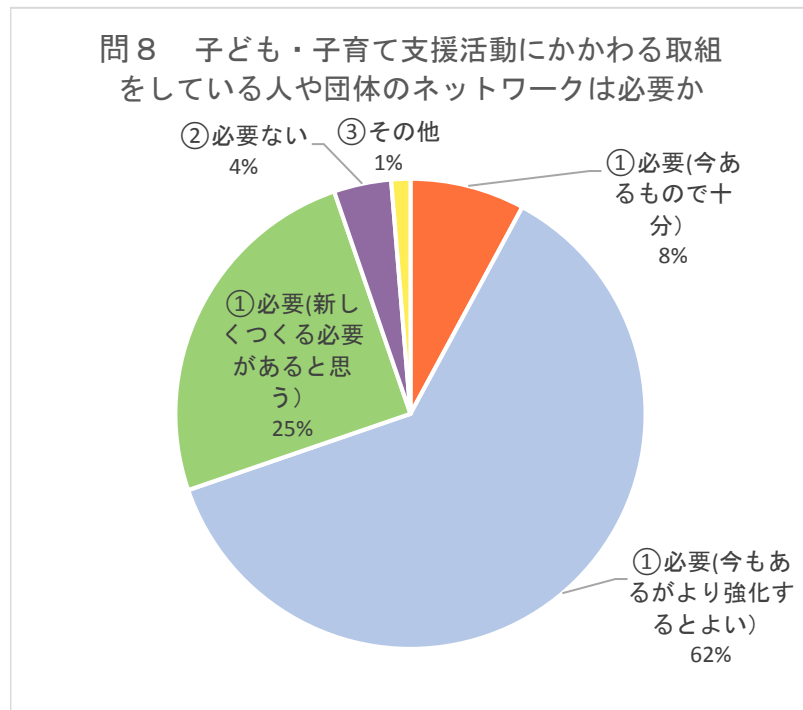


⑨その他 主な意見

- ・困難を背負っている子どもについて、話をよく理解し、逃げ場となるような関係をつくる。
- ・子連れでも出かけやすいコミュニティカフェなどが地域の色々なところに行けると入口の敷居を低くできる。
- ・保護者がいつでも気楽に相談できる窓口があれば。但しプライバシーの問題を気にしない窓口がよい。
- ・中学生が行きやすい、参加しやすい居場所があればと思う。
- ・ハードルの低い居場所が常にあること、いろんな子に対応できるいろんな居場所があること

●問8 地域の子ども・子育て支援活動におけるネットワークの必要性(1つ回答)

95.6%が「必要である」と回答した。「必要である」と答えた回答者のうち、「今もあるがより強化するとよいと思う」の割合が高く、次いで「新しく作る必要があると思う」の順となっており、強化・新規によるネットワークづくりの必要性を感じている人が約9割をしめている。



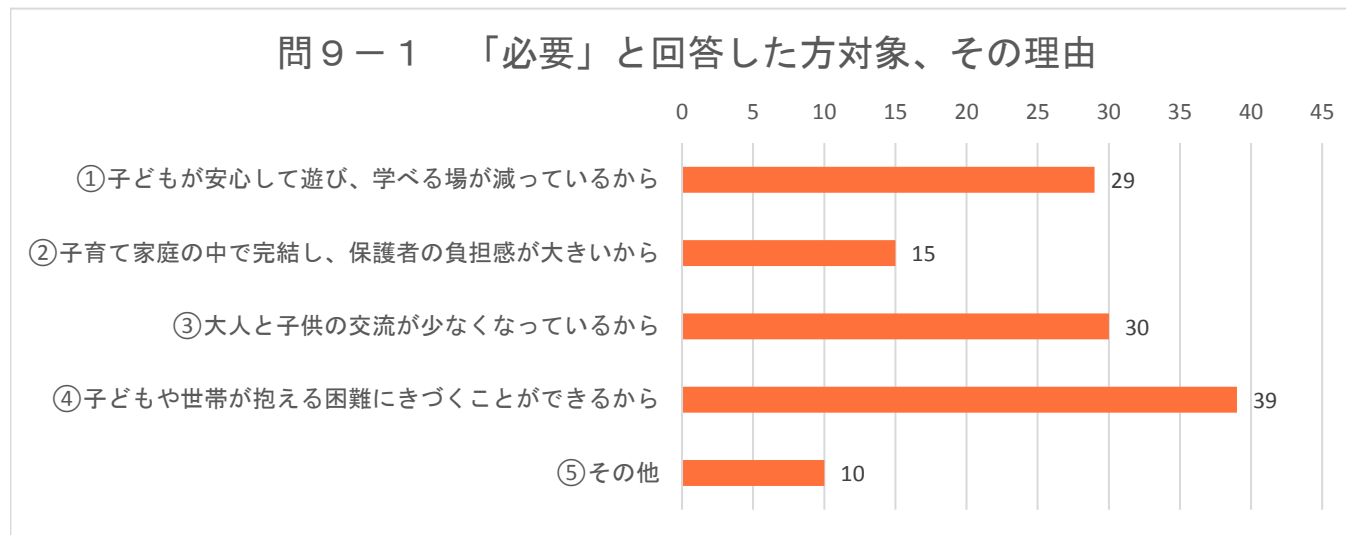
B. 子ども食堂など地域の子どもの居場所づくりについて

●問9 地域の子どもの居場所づくりの必要性、充足状況(1つ回答)

地域の子どもの居場所づくりの必要性は、「必要だと思う」が8割と必要性を感じている。必要だと思う人へ現状の充足状況をきくと、「今もあるがより増えたらよい」の割合が高く、次いで、「新しく作る必要があると思う」「今あるもので十分だと思う」の順となっており、約7割以上が居場所の増加を望んでいる。

●問9-1 居場所があった方がよいと思う理由(複数回答)(子どもの居場所づくりが「必要だと思う」場合)

「子どもや世帯が抱える困難に気づくことができるから」の回答が高く、次いで「大人と子どもの交流が少なくなっているから」「子どもが安心して遊び、学べる場が減っているから」の順となっている。

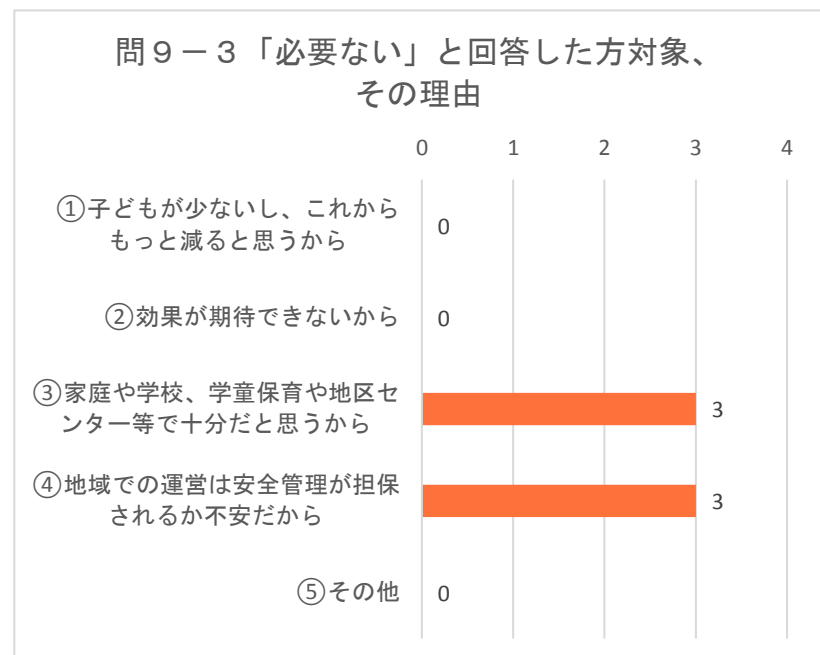
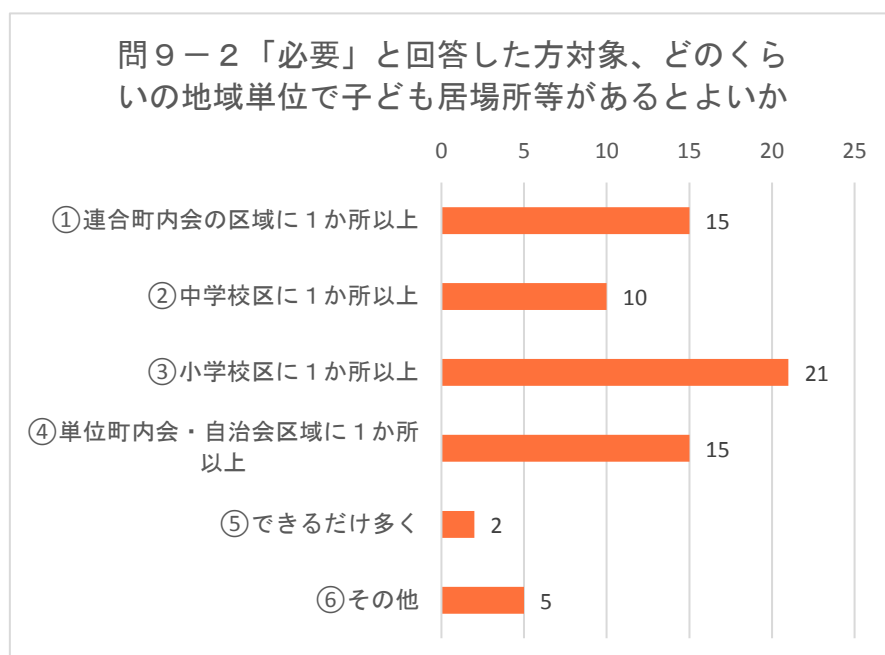


⑤その他 主な意見

- ・フリースペースのような場所ができれば、これからの地域や町は力強く、協力していけると思う。空き地が住居ばかりになってきて、川や公園も遊び手は少なく、歩く道は通るだけの寂しい場所になっている。もっと子供が集まれる場所が必要。
- ・家庭でもなく、学校でもない居場所が必要だと思うから。
- ・放課後キッズ等は学校の中なので、一部の一定したものにだけ見えて、地域には見えにくい。
- ・「しなければならぬ」から解放される場や心が落ち着く場が必要。

●問9-2 望ましい居場所の地域単位(1つ回答)(子どもの居場所づくりが「必要だと思う」場合)

「小学校区に1か所以上」が多く、次いで「単位町内会・自治会区域に1か所以上」「連合町内会の区域に1か所以上」が同数となっている。

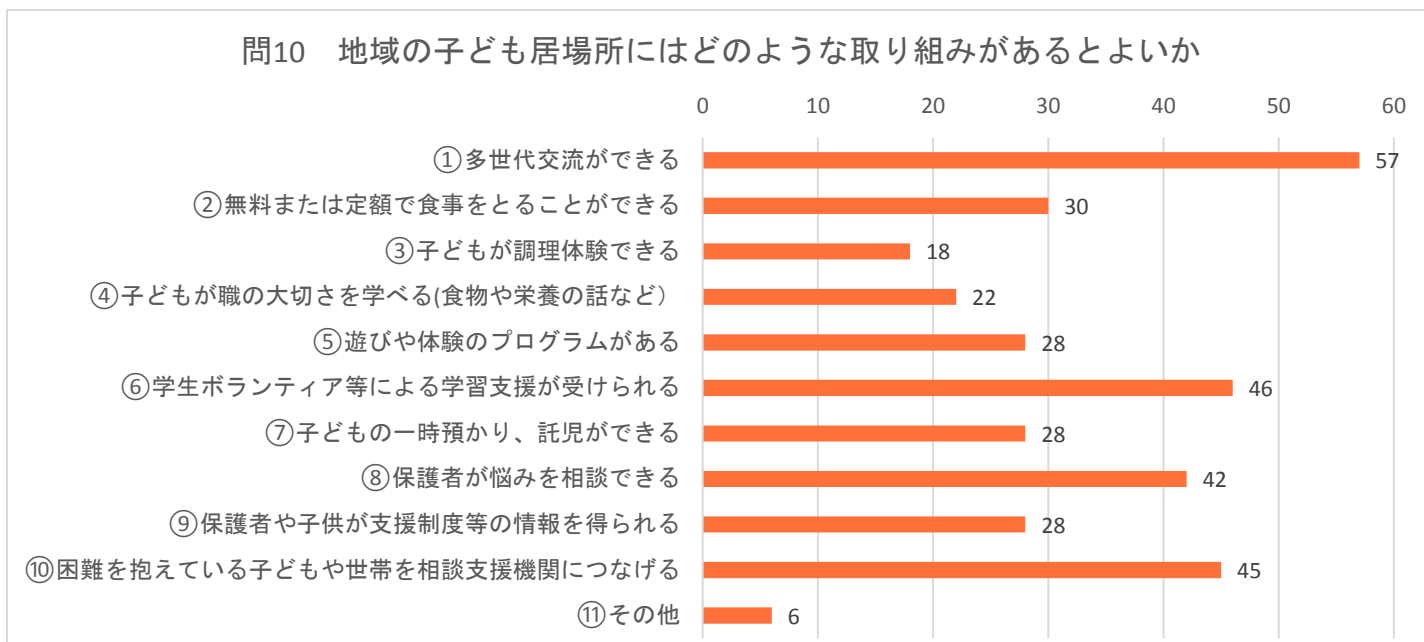


●問9-3 必要がないと思う理由(1つ回答)(子どもの居場所づくりが「必要ないと思う」場合)

「家庭や学校、学童保育や地区センター等で十分だと思うから」、「地域での運営は安全管理が担保されるか不安だから」がそれぞれ3件だった。

●問10 地域の子どもの居場所づくりに係る望ましい取り組み（複数回答）

「多世代交流ができる」の回答が最も高く、次いで「学生ボランティア等による学習支援が受けられる」、「困難を抱えている子どもや世帯を相談支援機関につなげる」、「保護者が悩みを相談できる」の順となっている。

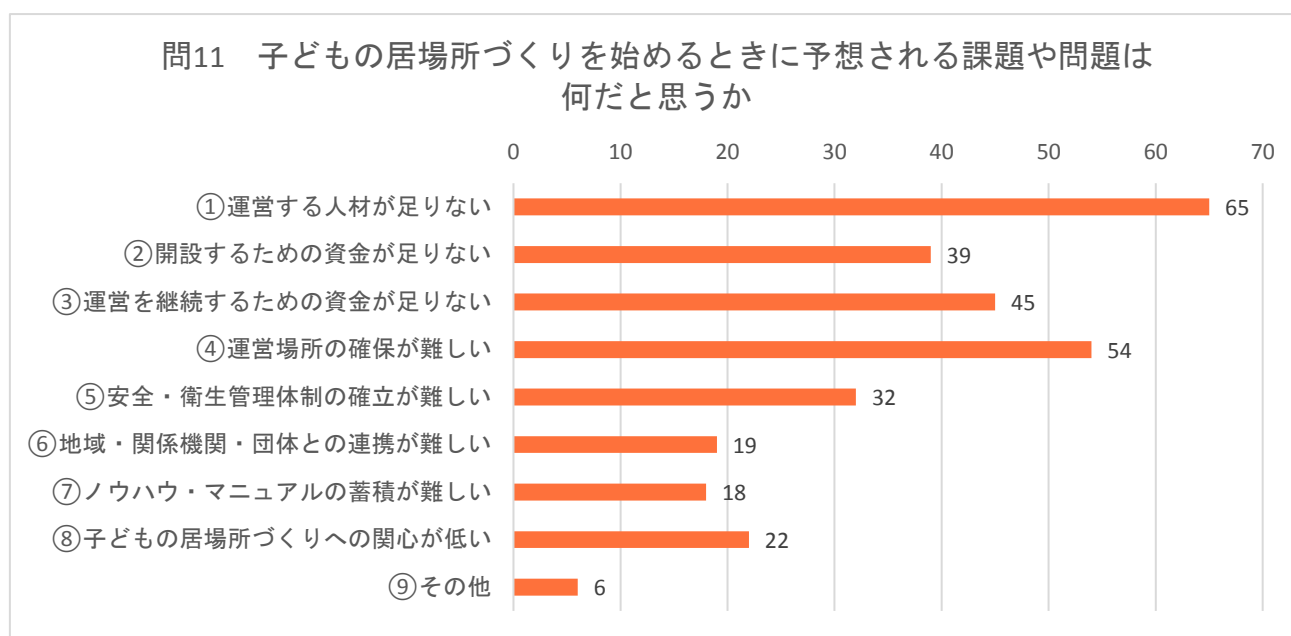


その他

- ・基本的な生活習慣を身に付ける。
- ・色々な取り組みをしている居場所がそれぞれあれば必要としている子が行くかもしれないので、いろんな居場所があればよいと思うが、居場所を必要としている本人たちは多分いろんな取組のあるところより、放っておいてくれるところ、したいことができる所をほしがっているのではないと思う。
- ・居場所に取り組みはいらぬ。安全と安心があればよい。
- ・安心して預けられる親の自由時間

●問11 居場所づくりを始める際に予想される課題（複数回答）

「運営する人材が足りない」の回答が最も高く、次いで「運営場所の確保が難しい」、「運営を維持するための資金が足りない」「開設するための資金が足りない」の順となっている。



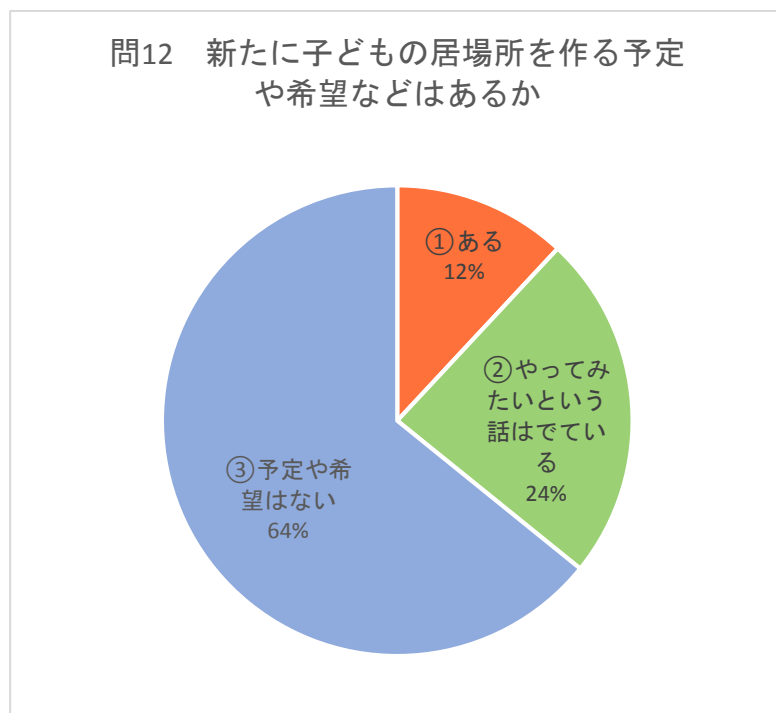
⑨その他 主な意見

- ・困難を抱えていることをオープンにしにくい雰囲気があるように思う。
- ・始める時の問題意識、運営体制
- ・左項目④～⑦難しいではなくはじめてみよう。
- ・商店会が近くにあるので何かしらの協力を仰いでもらい、ボランティアもサイクルの形で回してもらえたら手伝いやすい。
- ・誰かが発起人（地域に子供の居場所が必要！というサインをキャッチし発信できる人）になれるかが問題だと思う、お金、ノウハウ、連携等の問題は「居場所をつくらう」という人達が集まれば解決できると思う。

●問12 新たに子どもの居場所をつくる予定や希望などはあるか

(1つ回答)

「ある(すでにやっている)」「やってみたいという話はでている」との回答を合わせると4割近く、「予定や希望はない」との回答は6割となっている。



その他、「地域の子どもの居場所づくりについて（自由記述）」において多数ご意見が寄せられました。（意見抜粋）

- ・大人と接する機会が少ない。色々な方と接し、学ぶことが将来の生きる力につながっていくように感じる。
- ・地域の人たちがみんなで子育てする意識を育て、その延長で居場所ができるとよい。
- ・大規模なものは難しいが、小さなことから始められるとよい。
- ・それぞれの子どもが求めているものに気づいてあげることで、そのためには自然な形で地域の大人や子ども同士触れ合える場所や機会を作ることが必要。
- ・居場所を必要としている子達が本当に欲しい居場所はどんなものなのか、様子から想像するしかないが、そこを教えてもらうつもりでじっくり取り組むものだと思う。
- ・子どもの情報がなかなか伝わってこない。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

社会福祉法人横浜市旭区社会福祉協議会